

第 6 章 酸性雨調査結果

一般的に硫黄酸化物や窒素酸化物等の大気汚染物質の影響により、雨水のpH(水素イオン濃度)が5.6以下となった雨を酸性雨と呼ぶ。

酸性雨は欧米を中心に土壌や河川、湖沼の酸性化による生態系の変化、森林の衰退等の問題を引き起こしている。

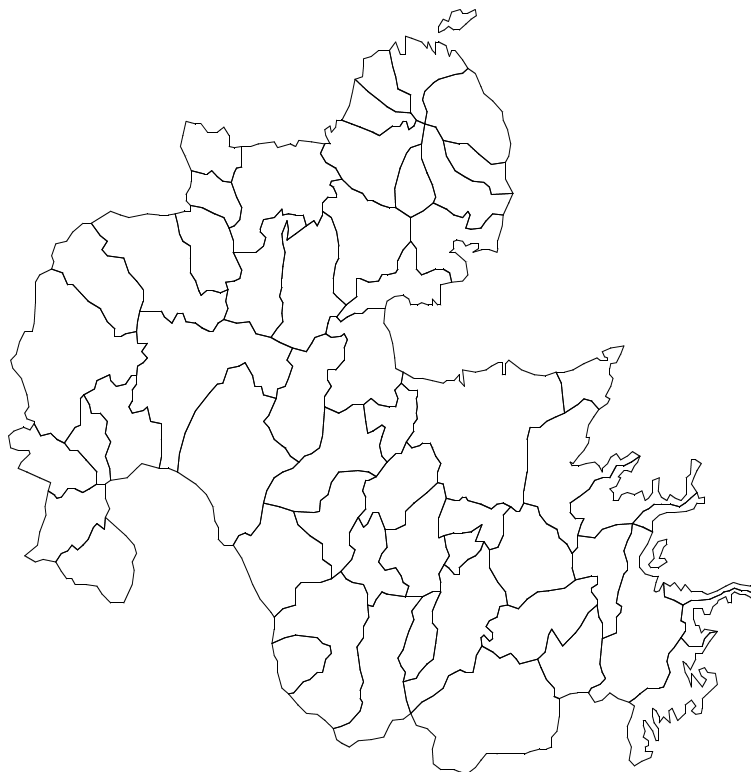
本県では、こうした現象は観測されていないが、県内における酸性雨の実態の把握と発生メカニズムの解析を目的として、昭和60年より調査をおこなっている。

調査地点・期間

調査地点：大分市、日田市、久住町の計3地点

調査期間：平成15年4月～平成16年3月

図 6 - 1 酸性雨調査地点



番号	市町村	調査地点
	大分市	県衛生環境研究センター
	日田市	県林業試験場
	久住町	県畜産試験場

調査方法

ろ過式雨水採取装置により一週間及び二週間ごとの降水を採取し、pH計によりpHを測定する。

調査結果

各地点の平成15年度のpH年平均値は大分市で4.53、日田市で4.68、久住町で4.56であり、全測定地点で酸性雨の目安であるpH5.6を下回っている。

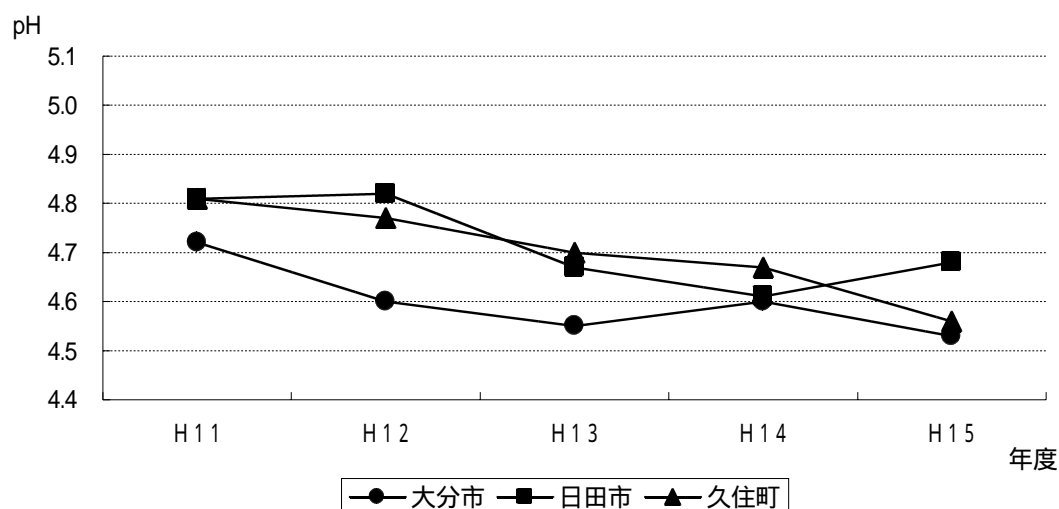
各調査地点の雨水のpH年平均値の調査結果を表6-2に、経年変化を図6-3に示す。

過去5年間では、pH4.53～4.82の値で変動している。

表6-2 雨水のpH年平均値の調査結果

年度	H11	H12	H13	H14	H15
大分市	4.72	4.60	4.55	4.60	4.53
日田市	4.81	4.82	4.67	4.61	4.68
久住町	4.81	4.77	4.70	4.67	4.56

図6-3 雨水のpHの年平均値の経年変化



参 考 全国の国設酸性雨測定所の調査状況

区 分	平成13～14年度
最小値	4.34
最大値	6.25